

業務部速報



No. 157

発行 22. 3. 30

JR東労組 業務部

申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022 年度賃金引上げ等に関する

緊急再申し入れ 第2回交渉③

* 組合の主な主張の赤字は、中央本部に寄せられた組合員の声です！

生涯賃金の低下による、モチベーションの低下と人材流出の危機感を訴える！

●賃金が会社の魅力や社員のモチベーションになっている●会社の黒字経営に向けて頑張っているという気持ちにならない●会社からは意識の変革をしていくことばかりを話されて、自分たちには形として何も返ってこない●やりがいだけでご飯は食べられない！目の前の生活が安定してこそ仕事に向き合う余裕が出てくる。生活の安定を保障して欲しい●定期昇給カットを受けて、生涯賃金が100万円以上減少した●必死に努力して頑張ってきた社員に対する会社の裏切りである●この間の会社からの回答を見れば一貫して変わっておらず、まるで社員の声には耳を傾けていないのではないか！●転職を決めた社員から「転職が決まっているが、今回の回答を見ると自分の判断は間違っていなかった」●JRに入社したのは安定して退職までの道筋ができると思っていた。赤字を機に転職を考えた●職場では昼夜問わず働き続け、パソコンのマウスを握ったまま寝落ちするまで追い込まれている組合員がいた●自らの働きが賃金に反映されない●手当はおろか、基本給まで正当に評価してもらえない。

●定昇カットはモチベーションのカット。社員と家族の幸せはどこにいったのですか？●定期昇給がカットされたことで、どれだけの人が幻滅したか、分かっていない●仕事に対する意欲を取り戻すためにも、別途支給は必要●やりがいとかチャレンジする気は起きない●凡事徹底は会社が労働契約に基づき、社員に当たり前に支払う賃金が正当な評価によって完全に履行されて、初めて成り立つ。

●現場と経営側の意識にズレがあり、それがモチベーション低下につながっている現実を受け止めるべき！

●JR東日本で組合員・社員が安定して安心して働ける環境をつくり出すことが重要である！

●生涯賃金が減額された状態を全く良しとしていないならば、定昇カット分について支給すべきだ！

●離職を考えたことがある青年部員は61%。JR東日本の社員が、モチベーション低下や会社への魅力低下などから、当社に見切りをつけて他企業に行くという現実を危機的状況だと受け止めるべき！

●私たちの労働力なくしてこの会社の発展はない。最前線で担う組合員のモチベーションの維持・向上、転職されない企業を作っていくということが今やるべきことではないのか！



組合の主張

会社主張

●安心して働ける環境づくりを行っていく。

●離職されることは良くないが、状況とすれば大きく変わらない。

●様々な声があることは理解する。社員・家族の幸福のため、勤務制度や手当を見直している。

「受け止める」ならば再考すべきだ！

●会社からの評価がこれだけ、社員は駒ではない●職場の声は反映されない会社●口だけで結果が伴っていない●経営陣の経営判断を反省すべき●上から目線の経営体質●どのように検討したのか経過も示さないでよく言える●誇れる会社にして欲しい。経営陣から身を削れ●鉄道業界の衰退につながる●若手社員がますます退職していく●会社の将来性どころか社員としての将来性も感じられない●役員は高い報酬をもらっている中で俺たちは給料が減り物価は上がる●期待を抱かせておいてひどい●職場の声も利用者の声も受け止めない会社だ●何を受け止めたのか教えて欲しい。受け止めると言うなら形で示して欲しい。

●組合員は私たちの苦労と努力、生活苦、物価上昇などを受け止めたと感じたが、回答が示され愕然としている。届けられた声の99%は「受け止めてない」との認識だ！

●労働条件の最たるものは賃金であり、組合員・社員のモチベーションに大きくかわる要素である！

●会社への不信感、「未来はない」と言われている経営姿勢に危機感を持つべき。

●交渉では「受け止める」と言いつつ、何も報いていないではないか。会社の経営姿勢に対する不信・不満や、今後の会社を憂う声なども届けられている。「受け止める」のであれば「受け入れる」べきであり、現在の会社の経営姿勢を改めない限り、このような声は収まっていけない！

組合の主張

会社主張

●社員の声は受け止める。

●3月17日に示した回答が最終回答だ。社員の声に最大限応える回答をした。